

## 中央新幹線（東京都・名古屋市間）計画段階環境配慮書（長野県分）に対する大鹿村の意見を提出しました

中央新幹線（リニア）の建設に向けて、事業主体であるＪＲ東海が、８月５日に計画段階環境配慮書（長野県分）を公表しました。

大鹿村ではこの環境配慮書に対し、環境保全の見地から別紙のとおり４つの意見をＪＲ東海に提出しました。

### 参考説明

#### 計画段階環境配慮書（長野県分）について

この環境配慮書では、起点の東京都（品川駅）から名古屋市（名古屋駅）までを、超電導リニアの超高速性を踏まえ、できるだけ直線に近い形を基本に、山梨リニア実験線を活用することとして、長野県内の事業実施想定区域（概略ルート）を約３km幅で、中間駅位置を約５km範囲で示されました。

大鹿村に係る事業実施想定区域は、「早川～南アルプス～伊那山地西端」として、ＪＲ東海が調査した区域の状況に対し、概略ルート選定において制約となる環境影響等を踏まえた内容を説明した上で、概略ルートの選定結果が示されています。（配慮書の抜粋を添付しましたのでご覧ください。）

#### 今後の予定について

ＪＲ東海では、今年秋頃に公表を予定している「方法書」において、環境配慮書に対する様々な意見の概要と事業者の見解を示し、概略ルート内の環境影響評価項目並びに調査、予測及び評価手法の選定などについて示すこととなっています。

方法書の手続きとして、１ヶ月間の縦覧期間にインターネットによる公表と地元説明会が行われることとなり、大鹿村でも説明会が開催される予定です。日程など詳細は決まり次第ＪＲ東海から連絡があります。住民の皆様の参加を願いますのでご承知おきください。

別 紙

## 計画段階環境配慮書（長野県分）に対する大鹿村の意見

提出者：長野県大鹿村 大鹿村長 柳島 貞康

提出日：平成23年8月26日

提出意見

1. 地形地質等の制約条件の内、「小渋川を、明かりで」通過することが明記されたことについて

概略ルート選定における制約のとおり、小渋川周辺には釜沢・上蔵地すべり地や崩壊地が連続しているため、明かり部とすることは地すべりの誘発や落石の危険など周辺地域の防災対策に大きな影響を及ぼす可能性が高い。

このため、小渋川の通過はトンネルとし、環境への影響を回避願いたい。

2. 水環境などの制約条件に区域内の状況が記載されていないことについて

大鹿村内には河川等から取水している生活、農業用水源地が存在すると共に、小渋川・青木川・塩川周辺に温泉源泉地が存在し営業を行っている。

このため、水環境について十分調査し影響度合いの把握に努めた上で、回避等環境に配慮した対策を明記願いたい。また、温泉源泉については代替が困難なため、トンネル工事前と工事後複数年における影響についての調査を公開で実施願いたい。

3. 本村の地形的条件を考慮いただき、残土処理計画概要の早期提示による検討の実施について

リニア概略ルートにおいては、山岳部や南アルプス部等ほとんどがトンネルであるため、膨大な量の建設発生土となる。本村における環境影響を評価し検討する上で先ず問題になるのが残土処理方法であり、地域住民にとって最も関心の高い事項である。

本村は急峻な地形と中央構造線などによる脆弱な地質のため、大量の残土処理場を確保することは困難で、仮設運搬路の設置も難しい。残土運搬には迂回路が無い生活道路を利用することが想定されることから、残土搬出は住民生活や環境に多大な影響を及ぼす恐れがある。

このため、本村の地形的条件を考慮いただき、特に方法書において残土処理の概略計画を提示いただき、早期に地域と一緒に検討することにより、環境への影響低減を図っていくようお願いしたい。

#### 4. 長野県内概略ルート周辺市町村への説明会開催について

長野県内では概略ルート設定における意見交換が実施されてこなかった経過があるため、環境配慮書において公表された概略ルートについて周辺市町村は何も情報がなく、地域住民への情報提供や意見聴取ができない状況である。

このため、方法書公告前に事業主体による下記の説明会等を開催し、方法書に反映していただきたい。

- (1) 概略ルート周辺市町村を対象にした個別自治体への説明・協議
- (2) 必要に応じ住民説明会の開催

以上4つの意見をJR東海へ提出しました。

なお、参考資料として環境配慮書（長野県分）の抜粋を以下のとおり添付しますのでご覧ください。

参考資料

【中央新幹線(東京都・名古屋市間)計画段階環境配慮書(長野県分)  
平成23年8月 東海旅客鉄道株式会社】抜粋

##### 4-2-2 事業実施想定区域

対象計画区域の状況および事業実施想定区域(以下、「概略ルート」という。)の選定における制約等は次のとおりである。

##### 5) 早川～南アルプス～伊那山地西端

項目	対象計画区域の状況	概略ルート選定における制約等
地形地質等の制約条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南アルプス・伊那山地の地質は、四万十帯、秩父帯中古生層、三波川帯変成岩類となっており、硬質で比較的良好な地質である。</li> <li>・南北に走る糸魚川・静岡構造線や中央構造線の周辺は破碎され脆弱である。</li> <li>・当該地域は、標高3,000m級の山々で複数の稜線が形成されており、地形上トンネルとなる。</li> <li>・早川、大井川、小渋川等により南北に深い縦谷が刻まれ、急峻な地形となっていることから、地すべり地や崩壊地が分布し、その一部に大規模なものも見られる。</li> <li>・南アルプス周辺の100年レベルの隆起量は20～40cmと報告されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糸魚川・静岡構造線や中央構造線をできる限り短い距離で通過する。</li> <li>・静岡県と長野県の県境に位置する3,000m級の稜線の中で、土被りをできる限り小さくできる荒川岳、塩見岳の間を通過する。</li> <li>・小渋川を、明かりで、できる限り短い距離で通過する。地すべり地や崩壊地内への坑口の設置等をできる限り回避する。</li> <li>・隆起速度については、日本国内で突出した値でないなど、トンネル設置にあたっての制約にはならない。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南部に雨畑湖、畑薙湖が存在する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湖を回避する。</li> <li>・この他、回避しなければならない箇所は見当たらない。</li> </ul>	
環境要素等による制約条件	生活環境 (土地利用状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ全域にわたり森林地域である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどトンネルとなることから、生活環境への影響は概ね回避可能と考えられる。</li> </ul>
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山梨県と静岡県との県境及び静岡県と長野県の県境に、南北にわたり南アルプス国立公園が、南部に静岡県立奥大井自然公園が存在する。</li> <li>・南アルプス一帯は、固有種・南限種を多数含む植生や、それに対応して希少猛禽類、哺乳類や高山蝶等が生息・生育する極めて保全重要性の高い生態系を有しており、南アルプス国立公園の拡張候補地として検討されている。</li> <li>・南アルプス国立公園南東部には山梨県指定の七面山自然保存地区、笹ヶ岳自然保存地区が存在する。</li> <li>・長野県指定の鳥獣保護区の特別保護地区として、伊那山地南部に万古川特別保護地区が存在する。</li> <li>・笹ヶ岳のシラベ、トウヒの亜高山帯林や赤石山脈の自然植生等の特定植物群落が存在する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどトンネルとなることから、自然環境への影響は概ね回避可能と考えられる。</li> <li>・土被りが大きいことから、トンネル内湧水による地表への影響は小さいと考えられる。</li> <li>・地形上、延長の長いトンネルが想定され、トンネル坑口に加え、工事用道路や斜坑等を設置する場合には、保全重要性の高い生態系を有する地域をできる限り回避し、既存の道路を活用するなど、自然環境に配慮する。</li> </ul>
	土壌環境 水環境 文化財など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定天然記念物として、新倉の糸魚川・静岡構造線（新倉露頭）のほか、県指定天然記念物などが存在する。</li> <li>・南アルプス西側から中央構造線周辺にかけて、日本ジオパークに認定されている。</li> <li>・南アルプスの高山域には、2万年前に造られた小規模な氷河・周氷河地形が存在する。</li> <li>・南アルプスは、世界自然遺産への登録に向け活動が行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財等への影響をできる限り小さくするよう配慮する。</li> <li>・高山域は、トンネルで通過するため、影響はないと考えられる。</li> </ul>

### 概略ルートを選定

南アルプスをほとんどトンネルで通過する。

糸魚川・静岡構造線および中央構造線をできる限り短い距離で通過する。

静岡県と長野県の県境に位置する3,000m級の稜線の中で、土被りをできる限り小さくできる荒川岳、塩見岳の間を通過する。

小渋川を、明かりで、できる限り短い距離で通過する。

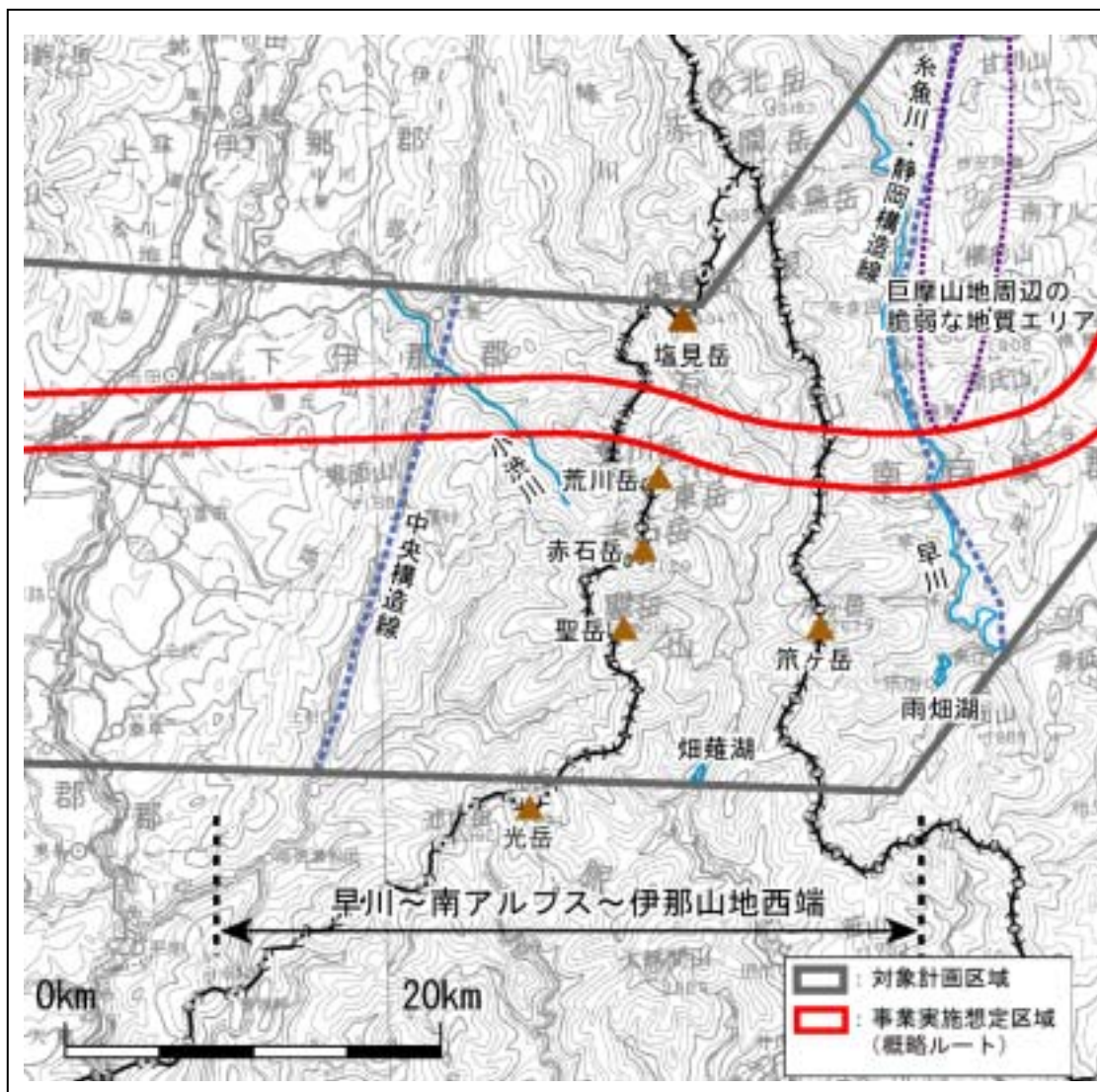


図 4-5 概略ルート位置図（早川～南アルプス～伊那山地西端）